



物流センター内の保管倉庫



物流センター内での詰替え作業

昭和50年代に入ると旭硝子(株)高砂工場ではフル生産が続き、船橋工場からも松下電器産業(株)（現 パナソニック(株)）、三菱電機(株)、(株)東芝、(株)日立製作所など、大手電機メーカー各工場へのテレビ部品輸送も繁忙を極めた。これに対応するため、松下電器産業(株)高槻工場と三菱電機(株)京都製作所を対象に、ジャストインタイムでのパーツ納入を可能にする中間物流拠点として、大阪府高槻市に24時間体制（3交代勤務）の高槻物流センターを開設した。また、高砂産業(株)でもこれを支援するため、予備のエンジンやミッションを配備し、いつでも大型レッカー車が緊急出動できるよう、24時間体制で故障車へのバックアップを行った。

24時間対応の高槻物流センターを開設

—— 1975(昭和50)年



24時間体制（3交代勤務）で稼働した高槻物流センター

ウインドセンター・シオタニ株式会社を設立

—— 1975(昭和50)年



ウインドセンター・シオタニ株の本社社屋

旭硝子株が全国展開したウインドセンターチェーンの一つとして、当社でも1975(昭和50)年10月、旭硝子製品を中心とする建材の販売・施工を目的とするウインドセンター・シオタニ(株)を設立した。これに備えて前年には、三菱商事(株)とALC(シボレックス=軽量気泡コンクリート)の特約店契約を結び、仕入れルートを確保した。また、設立後には三協アルミニウム工業(株)と特約店契約を結び、アルミ建材の取扱いも開始するなど、建設業界に各種建材を幅広く供給する体制を確立した。なお、1991(平成3)年には社屋(現 塩谷建設(株))を新築し、建材販売・施工業務のさらなる拡大を図っている。



ALC施工現場



取扱貨物の領域を広げ輸送事業を 着々と拡大—— 1976(昭和51)年



カラーテレビ用ブラウン管輸送に大活躍した幌型箱車

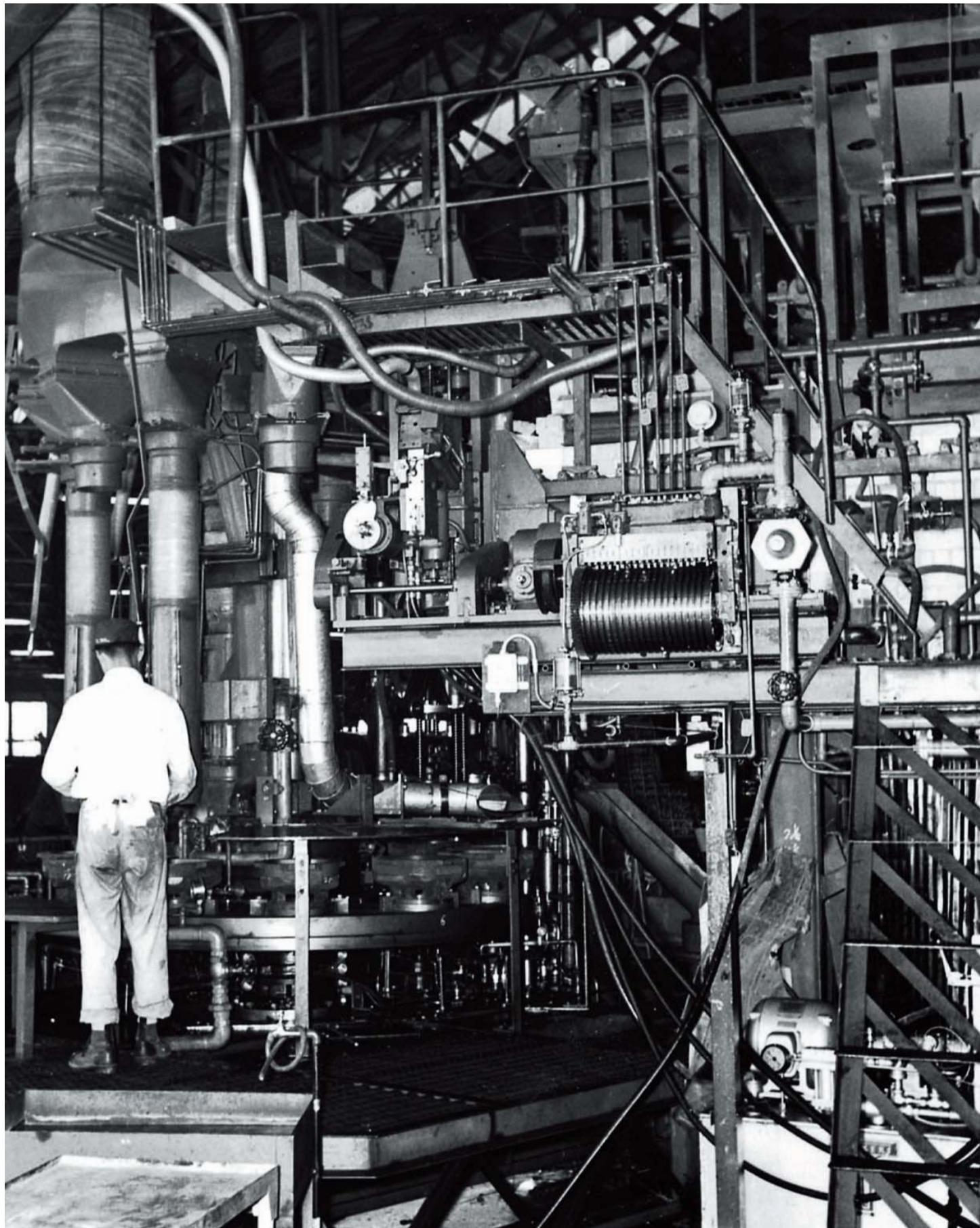
1976(昭和51)年12月、キッコーマン(株)高砂工場と取引を開始し、主として九州方面への商品輸送を請負うようになった。それまで旭硝子(株)関連の物流がほぼ100%を占めていたが、これをきっかけとして次第に飲料や食品などの輸送を手がけるようになっていった。さらに、テレビゲームがピークを迎えつつあったことも重なってトラックの増車・大型化が一段と進み、翌年2月には本社に第2車庫を増設した。また、輸送事業区域の拡張にともなって、一般区域自動車運送事業免許を1980(昭和55)年には大阪府で、1989(平成元)年には千葉県で取得している。



耐火レンガ専用10tショート平ボデー車



キッコーマンカラーのトラック



旭硝子(株)船橋工場のパネル成型設備

旭硝子(株)高砂工場から(株)日立製作所の佐倉工場や茂原工場、松下電器産業(株)の宇都宮工場、(株)東芝の深谷工場など、関東各地へのテレビ用ブラウン管を主とするパーツ輸送が大幅に増えたことに対応し、1980(昭和55)年11月に船橋支店を新設して従来の千葉出張所をこれに統合した。高砂工場から出荷したテレビパーツを各電機メーカー工場へ船橋支店中継で配送、または直接納入した。それらの段ボールケースを回収し、帰りのトラックで高砂工場へ返送するという流れである。これによって東西間の物流は大いに効率化し、よりタイムリーな客先への配送も可能になった。

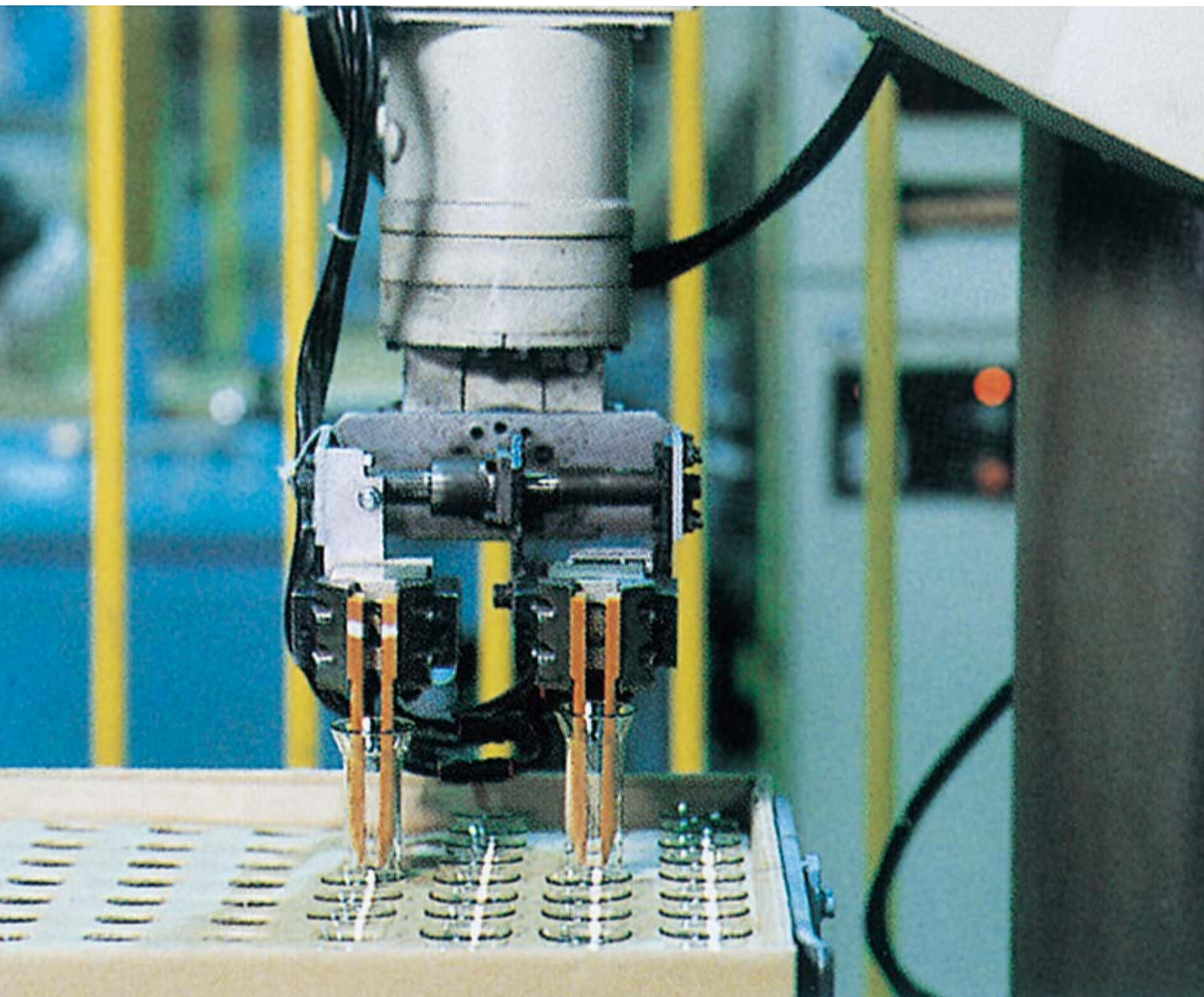


船橋支店(関東地域の物流拠点)

船橋支店を開設して千葉出張所を統合 —— 1980(昭和55)年



ブラウン管用管球ガラスの積み込み作業



ネックチューブ管のフレアー加工機

高砂工場フレアー製造ラインが稼働を開始 —— 1982(昭和57)年

1979(昭和54)年頃からのおよそ10年間は、旭硝子株
高砂工場のCRT用ガラスバルブ生産がピークを迎えた
時期であった。3交代勤務の24時間操業を維持するた
め、学生アルバイトをバスで送迎したのもこの時期であ
る。1982(昭和57)年には、さらにブラウン管の後部
につながるネックチューブ管の先端を、ラッパ状に加工
するフレアー工場が本社敷地内で稼働を始めた。これに
加えて、セラミックス工場では1981(昭和56)年に
「X-950」、1985(昭和60)年にはホウ化ジルコニウム
系セラミックス「セラボレックス」の製造が始まり、業務
部門は多忙をきわめる状況が続いた。



ネックチューブ管の検査作業



導電性と耐食性に優れた旭硝子のセラボレックス製品

高砂産業株式会社にボデー製作部門を新設

—— 1983(昭和58)年



昭和60年代に登場したウイング車

自社トラックの独自加工ばかりでなく、自動車メーカーに対してもより価値の高いサービスを提供するため、1983(昭和58)年1月、高砂産業株にトラックボデーの製作部門(現 株エスタック)を新設した。当初はすべてオーダーの特注品で、各社各様の機種や要望に応じて設計・製作を行ったほか、トラックの塗装も行った。受注先は順調な広がりをみせ、いすゞ自動車株、三菱自動車工業株(現 三菱ふそうトラック・バス株)、日野自動車工業株(現 日野自動車株)、日産ディーゼル工業株(現 UDトラックス株)、日本トレルモービル株(現 日本トレックス株)などへと拡大していった。近年はオーダーに加えて標準品のボデー製作も増加している。



株神戸製鋼所専用重量トレーラー



タカサゴボデー生産1号車とスタッフ

姫路営業所および太子営業所を開設

—— 1984(昭和59)年



姫路営業所(後の姫路支店)



中部営業所(後の加西支店)

1984(昭和59)年3月、三菱製紙(株)高砂工場との取引を開始し、物流部門における取扱量は一段と増加した。翌4月には、建設部門のさらなる事業拡大を図るため、姫路営業所を開設して西播磨での公共工事入札参加資格を得るとともに、一般貨物を保管する倉庫機能も兼備した。また同年7月には、(株)東芝太子工場の増大する物流需要に対応するため、同工場専属の倉庫・輸送機能を有する太子営業所を開設した。この時期、ブラウン管をはじめとする電子機器パーツ輸送がピークを迎えつつあり、この後も次々と物流機能の拡充を図っている。



太子営業所(現 姫路物流センター)